

個々が深める独自のフィールド – 裏プロジェクト特集 –

Each student progress for himself.

– Ura-Project –

text_suzuki

数々のプロジェクトを手がける都市デザイン研究室。プロジェクトと研究で充実した学生生活を送っていますが、それ以外でも個々が様々なフィールドで活動を展開し、それぞれの姿勢で都市と向き合っています。今回はマガジン編集部員の各々の活動、題して「裏プロジェクト」を紹介します。

Our lab members take part in some projects individually in addition to lab projects and each study, and get new views of urban space and design. That is "Ura-Project".

MASATAKA ABE

高山文庫

高山文庫は都市工学科に寄贈された、故高山英華先生の蔵書を中心として構成された資料であり、現在も整理作業が進行中である。私は前助教中島直人先生の作業をお手伝いする形で携わり、数々の図面、文書に触れる貴重な体験をした。

所謂歴史研究の分野に興味をもつ学生が少ないからか、整理作業はなかなか進まないが、多くの資料に触れるにつけ、整理が完了し、とりわけ著書を多く著さなかった高山先生の仕事を多くの人に知ってもらえる日が来ることが望まれる。



▲都市工図書室分室の様子



▲様々な図面、文書、名刺 etc.

KEIKO SAKURABA

裏プロ-1 鋳物工芸

ぐつぐつたぎる真っ赤な金属。手仕事のよここび。ひとつとして同じ表情のない鋳肌。金属を磨く音だけが響く、静寂の時間が好きだ。

裏プロ-2 新聞 OKUBO

多文化共生のたのしさと難しさを教えてくれた新宿区大久保での活動。復刊第4号近日発行!

<http://www.ngy.3web.ne.jp/~kyojukon/okubo.html>

◀題「みをまかせ」
(花器 / 鋳造 / 青銅)

3/3 ~ 6 開催、鋳金工芸作品店展に出展した櫻庭第2の?卒業作品



RYOHEI SUZUKI

たなカー&ぷらっと

都市デザインスタジオのメンバーで **balloon** を結成。柏市の郊外ニュータウン、香取市の中山間地域で住民の方と協働して活動中。これからの高齢化社会、環境配慮型社会の都市デザインの1つの方法として、モバイル施設とそれが発着する小さな公共空間のネットワークを提案。

balloon
urban design partners -since 2009-



▲集合住宅の設計スタディ

自分たちでできることからカタチにしていく。これをモットーに今後も継続して活動していきます。ちなみに、2010年度はG空間 EXPO 学生フォーラム、建設コンサルタンツ協会学生懸賞論文で受賞しました!

HPは <http://www.tanacar.co.jp/>



▲制作したモバイル施設の実験

KOJI YAMASHITA COMPETITION

修士の二年間、友人と共に建築・プロダクトデザインやインсталレーションなど様々なコンペに参加しました。いくつかのコンペでは実際に作品を制作する機会も与えていただきました。全く知らない分野に悪戦苦闘し、時には友人や後輩などの協力も得ながら、なんとか完成にこぎつけることができました。このように自分達のアイデアを実際の形にしていく難しさ、そして楽しさを知ることができたのはとても貴重な経験となりました。勝っても負けても、自分で考え抜いたという経験は絶対に今後の糧になるはず! 皆さんも空き時間を有効活用しながら是非コンペにチャレンジしてみてください!



▲制作した作品で遊ぶことも

まちづくり大学院の修士論文の発表が行われました。この春で修了するまちづくり大学院所属の肥山さんからコメントをいただきました。

まちづくり大学院 M2 肥山 達也

私の修士研究は、横浜みなとみらい21地区を対象として、エリアマネジメントの公益性について考察し、大都市都心部や市街地整備における持続可能なエリアマネジメント組織の運営について知見を得ようとしたものです。私自身が現在、みなとみらい21地区におけるエリアマネジメント組織である一般社団法人横浜みなとみらい21の設立から軌道に乗せる仕事にかかわっているため、研究テーマとして設定しましたが、仕事と学術論文との違いに戸惑い、悩みは尽きませんでした。ですが、自分の仕事を見つめ直す良い機会になったと思います。

本論文の作成にあたり、西村先生、窪田先生、諸先生方には、終始暖かく見守ってくださるとともに、細部にわたるご指導をいただき、心から感謝申し上げます。研究室会議での刺激的な議論は、今後仕事をするうえでも大きな財産となりました。本当にありがとうございました。



▲対象地となったみなとみらいの夜景

研究室再開発！！

Regeneration of the lab room at 10th floor

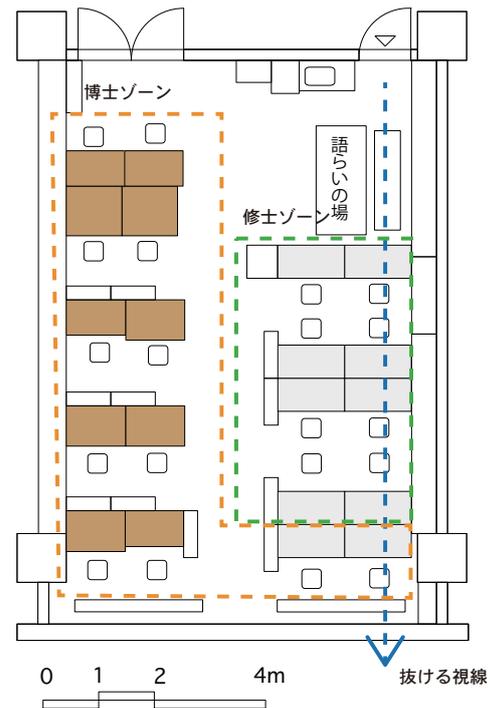
M2が卒業していく3月。新入生が入ってくる4月。研究室の改変が行われました。

text_yabuki

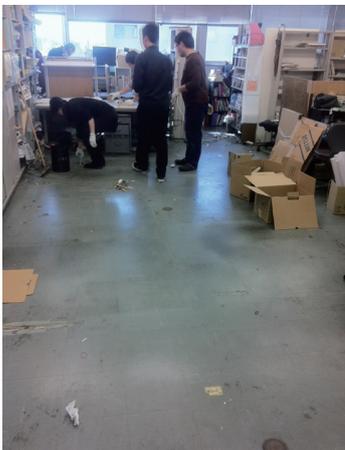
去る3月6日(日)、毎年恒例の研究室掃除と模様替えを行いました。今回の対象地は新M2の内7名が移動する10階の南側半分。先人たちの汗と涙がしみ込んだ重要文化財「丹下ソファ」等を保全しながら、良好な環境を作るべく博士や助教までも巻き込み奮闘しました。張り巡らされたLANケーブルや机の高さ調整に使われたマンガなど、住み慣らされたそこはまさにスラ…いや木造密集市街地ながら。美化係なのになぜか「部長」と呼ばれながら黒瀬助教と高さ規制や区画整理の様な机の再配置、地権者との交渉など様々な手法を駆使し、再開発を進め、新M2の新たな作業空間を作りました。結果、新M2は10階へ即移動、インセンティブをつくり出す事に成功し、ほっとしました。皆様、ご協力ありがとうございました。

Urban Design Laboratory

After



▲再開発マスタープラン



▲大掃除中こんなに床が見えるなんて…



▲大掃除後日当り良好な空間に大変身

マガジン編集部より

3月11日に発生しました地震を受けて安否確認を行ったところ、研究室のメンバー全員の安全が確認されました。この地震により被害を受けた都市の中には、都市デザイン研究室がプロジェクトで関わらせていただいている都市もあります。研究室として何が出来るのか、マガジン編集部として何が出来るのか、都市を学ぶものとして、深く考え行動していきたいと思えます。

Information

3月・4月の予定

3月24日	学位記授与式&追いコン
3月25日	学部卒業式
4月12日	入学式
4月15日	活動報告会&新入生歓迎会
3月下旬~4月上旬	各プロジェクト現地報告会 足助・佐原・高山

✦ 編集後記

鈴木 亮平

2月末に屋久島を旅行してきました。自然の美しさもさることながら、自然の、特に水の力強さに驚きました。そこには人間を圧倒するエネルギーがあり、人間の小ささを強く感じました。それから2週間。再び自然の、そして水の脅威を突きつけられました。自然を前にして人間は無力であると、そこには人間を近寄せない力があると、感じざるを得ません。自然と共生すること、寄り添って生きること。これは人間の生活の根源的なものであり、都市の永遠の課題であるのでしょうか。地震の直前、研究室のメンバーに子どもが生まれました。都市にはやはり希望があるのも事実です。希望を見失わない。そんな場所を築いていくために何をすべきか、考えさせられる3月となりそうです。